



2020年5月20日

# JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部 No. 44

## オンライン時代における大学英語教育 —今、大学英語教員に求められること—

支部長 石川 有香  
(名古屋工業大学)

5月14日に中部地区に発出されていた緊急事態宣言が解除されました。漸く、トンネルの向こうに感染終息の光が見えてきたようです。とは言え、まだまだ予断を許さない状況が続いています。対面での授業再開には十分な対策が必要になります。特に、コミュニケーションを主体とした英語授業では、クラスの数も多く、声を出して会話を行うこともあるでしょう。「3密」の回避が大きな課題となっていると言えそうです。

そのため、中部地区の多くの大学では、現在でも、オンラインによる授業が続いていると聞きます。先生方におかれましても、通常の研究活動に加え、質の高いオンライン授業のあり方を求め、例年以

上にお忙しい日々を過ごしておられることと存じます。

JACET 中部支部では、6月6日に中京大学で今年度の支部大会を開催する予定でしたが、感染拡大防止の観点から、対面での開催を見送ることとしました。代わりまして、9月12日に日を改め、オンラインでの支部大会を開催いたします。遠方の先生方も、旅行中の感染リスクが軽減され、安心してご参加いただけるのではないかと考えております。

オンラインを活用した授業については、学生から、「ビデオは何度も聞くことができるので、いつもよりもよくわかる」という歓迎の声も出始めていると言われています。一方で、オンラインの操作方法に関する質問を含め、1日中、学生へのメール対応に追われるなど、教師への負担が大きすぎるという声も聞きます。

オンラインを活用した英語教育は、今後も、補習や入学前教育など、幅広く使用可能であると思われます。前期が終了するこの時期に、オンライン時代に大学英語教員ができること、やるべきことについて、先生方と共に考える時間を持たせていただきたいと思います。今年度の支部大会のテーマを「オンライン時代における大学英語教育—今、大学英語教員に求められること—」といたしました。

先生方に直接お目にかかって、交流を深めることはできませんが、インターネットを駆使して、例年に劣らない、有意義な大会になりますよう、工夫を行って

### 目次

オンライン時代における大学英語教育 —今、大学英語教員に求められること—	石川 有香	1 頁
海外学会参加報告	大石 晴美	2 頁
研究会報告 授業学研究会(中部)	佐藤 雄大	4 頁
事務局より		5 頁

参ります。現在、役員一同知恵を絞って、準備を行っているところです。ぜひ、この機会に、先生方の日ごろの研究成果をご発表いただき、新しい時代における大学英語教育への示唆を頂戴できますようお願い申し上げます。発表申込み締切りは7月末日です。申込み方法は、JACET中部支部ホームページをご覧ください。

また、これまで、中部支部紀要は、他支部の先生方へお届けすることが難しい状態でしたが、現在、支部紀要編集委員会では、大石晴美委員長のリーダーシップの下で、J-Stageへの登録を進めております。研究論文の他、研究ノートや実践報告、書評など、紀要に記載させていただいた先生方の研究の成果を、内外に広く発信できるよう取り組んでおります。支部紀要への投稿の締め切りは9月10日となっております。支部大会でのご発表と共に、支部紀要への投稿を頂戴できますようお願いいたします。

今年は、残念なことに、第59回JACET国際大会も中止となりました。海外でも、まだ、多くの国が感染に苦しんでいる状態です。こうした地球規模での危機的状況であるからこそ、コミュニケーションの重要性を伝えていくことも我々に課せられた課題であろうかと考えます。大学

英語教育において、何を、どのように教えるべきか。教員は、どう取り組んでいくべきか。先生方のご発表・ご投稿をお待ちしています。

大会プログラムは、8月中に支部会員の皆様にお届けいたします。参加のご予定もよろしくお願いいたします。

## 海外学会参加報告

### CATESOL 2019 参加報告

大石晴美  
(岐阜聖徳学園大学)

CATESOL (California Teachers of English to Speakers of Other Languages) 2019は、2019年10月3日から6日まで、米国カリフォルニア州サンノゼ・マッケンナリーコンベンションセンターにて開催された。サンノゼにはシリコンバレーと呼ばれる地域があり、IT企業のメッカとして有名である。日経企業も多く日本との関わりも深い。本大会は50周年を迎える記念大会であった。参加者は、カリフォルニアでESLを教える教員が圧倒的に多かったが、日本やアジアからの参加者も少数見られた。大会テーマは、Honoring the past and

 <b>成美堂 2020年度 新刊のご案内</b>		〒101-0062 東京都千代田区神田小川町3-22 TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
<p>Success with Reading Book 1 &amp; Book 2.....2,500 円(税別)</p> <p>Let's Learn English with Pop Hits! .....2,300 円(税別)</p> <p>Listen Up, Talk Back Book1.....2,300 円(税別)</p> <p>Science Quest.....1,900 円(税別)</p> <p>VOA Science &amp; Technology Report.....2,200 円(税別)</p> <p>Changing Times, Changing Worlds.....1,900 円(税別)</p> <p>CLIL: Discuss the Changing World.....2,200 円(税別)</p> <p>Surviving in a Global World.....1,900 円(税別)</p> <p>Two Sides to Every Discussion 2.....1,900 円(税別)</p> <p>AFP World News Report 5.....2,500 円(税別)</p>	<p>Getting Ready to Change the World.....1,900 円(税別)</p> <p>ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® L&amp;R TEST ..2,200 円(税別)</p> <p>TOP TIPS FOR THE TOEIC® L&amp;R TEST .....2,100 円(税別)</p> <p>PRACTICAL SITUATIONS FOR THE TOEIC® TEST LISTENING -Revised Edition-.....1,300 円(税別)</p> <p>THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC® TEST -Revised Edition-.....1,800 円(税別)</p> <p>Meet the World 2020 English through Newspapers...2,000 円(税別)</p> <p>新・グローバル時代の英語教育 .....2,600 円(税別)</p>	<p><b>SEIBIDO</b> URL:<a href="http://www.seibido.co.jp">http://www.seibido.co.jp</a>          e-mail:<a href="mailto:seibido@seibido.co.jp">seibido@seibido.co.jp</a></p>

inspiring the future で、米国における ESL 教育の変遷に焦点をあて、語彙習得、ライティング、カリキュラムなどに関する発表が行われた。

基調講演者の Keith Folse 氏 (University of Central Florida) が、日本、サウジアラビア、マレーシアなどで教えた経験を踏まえて、第二言語教授法のストラテジーを伝授した。Willy Ardian Renandya 氏 (National Institute of Education, Nanyang Technological University) は、多読の方法について、学習者のレベルに応じた多読教材の選定の重要性を主張した。図書館用の多読教材選定担当者あるいは、授業で多読を取り入れている指導者にとっては、大変有益な内容であった。

Workshop では、Dana Ferris 氏 (University of California, Davis) および Ann Johns 氏 (San Diego State University) らのライティング指導法に一石を投じた議論が印象的だった。5 パラグラフエッセイに重点を置くことに警告を示し、L2 話者にとっては、ジャンル・ライティング指導が学習者の言語に正の転移を導く点で有益であると主張し、指導法を紹介した。我が国でも、ライティングのテキストで 5 パラグラフエッセイを取り扱ったものが多く、ライティング指導者にとって、必見の発表だと感じた。

The Future of ELT in Asia: Prospects and Challenges と題するシンポジウムでは、日本、韓国、シンガポール、台湾、タイの今後の英語教育について議論され、日本からは、小田眞幸氏 (玉川大学) が招かれていた。議論の中で、Kachuru の分類の Outer Circle や Expanding Circle の同一 Circle に属する国々でもそれぞれ特徴的な取り組みがされていることが興味深かった。

また、筆者が、2018 年度客員研究員として在籍したサンフランシスコ州立大学大学院からは、教授と大学院生との共同発表がいくつか公開された。筆者も大学院生らとともにリーディング・ストラテジー研究において、リーディングの得意な学習者は、いくつかのストラテジーを統合していることを報告した。カリフォルニアの ESL 教育では、リーディングより、ライティング、スピーキングに重点が置かれている中、本発表は、新鮮なものとして受け止められ予想外に反響が大きかった。日本からの客員研究員として、米国大学院生との共同研究で、日米をまたぎ指導者養成に貢献できたことも大きな成果として残された。

50 周年ということもあり、カリフォルニアの ESL 教育だけでなく、アジアを中心として、実践的英語教育を追求し熱心に取り組んでいる研究者、教育者たちの参加があった。彼ら、彼女らと遠く離れた米国で、

	<p><b>Writing Key</b> <b>English Grammar and Usage for Better Writing</b> 英語の感覚をつかむ文法からライティングへ</p> <p>北尾泰幸 / Anthony Allan 著</p> <p>文法のエッセンスを良質のインプットで吸収！ 英語の感覚を磨き、自然な英文を書くための 15 章</p> <p>¥ 1,800 (税別) B5 判 68 pp. 全 15 章 ISBN978-4-7647-4086-0</p> <p><b>KINSEIDO</b> <b>金星堂</b> 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21 電話 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716 text@kinsei-do.co.jp http://www.kinsei-do.co.jp</p>
---	---

現地の人々とともに貴重な出会いと意見交換があり有意義な大会であった。筆者自身さらなる英語教育熱が高まった。

## 研究会報告

### 授業学研究会（中部）

佐藤雄大

（名古屋外国語大学）

授業学研究会（中部）は、2016年度～2018年度関東支部、関西支部と合同で英語教育セミナー・ジョイントセミナーにおいて「授業学」をテーマとし、共同して取り組んできました。その流れを継続させるためにも昨年の2019年度から三支部の授業学研究会が協力して「授業学研究大会」をはじめ東洋大学を会場に開催し、数多くの授業学に関係する研究発表を行うことができました。こうした流れを今年も継続するため本年度、第2回の「授業学研究大会」を5月16日に帝京科学大学千住キャンパスで開催予定でしたが、コロナウイルス感染予防の観点から開催を見送り、現在に至っています。

授業学研究会は、2005年の研究会発足から「授業」をテーマにしながら「学習」に焦点を当ててきました。授業実践されている方はすぐわかるように人の知識習得は「モノ」の受け渡しのように教授者が知識を学習者に渡せば学習者がそれを受け取って終わるものではありません。教えるべき知識（あるいはイメージ）を学習者に授業の中でのやりとり（コミュニケーションや対話）を通じて伝え、そのイメージを学習者が一過性のものではなく細部にわたって豊かなものになるよ

うに学習者自身がそのイメージを他者とやりとりしながら確認することが必要で、それを教室内で実践する、というようなことが必要です。

おそらくこういうことは授業を実践してきている実践者にとっては特別新しいことではなく、普段心がけているような経験知というものにあたるかもしれません。しかし、こうした経験知を理論的にサポートし、より一般化していくことが私たち授業学に求められていることだと考えて、研究活動を行ってきました。こうした授業の中でのやりとりに着目した知識の伝達、学習者のサポートに関しては、旧ソ連の心理学者ヴィゴツキーから始まる「社会文化的アプローチ」（主にZone of Proximal Development や Scaffolding 等の概念装置が有名な研究領域）や認知心理学を実際の学習環境で検証しながら学問的に学習を分析する「学習科学」、そして身体性と脳との関係性から人間の知について考察するアントニオ・ダマシオなどの知見が参考となっています。

こうした学習を考える上で、現在各大学で実施されているオンラインによる授業はまた新しい知のやりとりの姿を私たちに提示してくれていると感じています。このことは今まさに現在進行形の事態であり、ある一定の距離をとりながら考察しなければなりません。一つの事例を紹介したいと思います。ここ2年ほど学習科学で多く活用されている「ジグソー法」（東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構の「知識構築型ジグソー法」に詳しく解説してあります）を英語教育の一つとして取り入れていました。このジグソー法を簡単に述べると、大き

なテーマに対していろいろな新聞記事を集め、第一段階として異なる記事を各グループに与え、その記事のエキスパートになってもらう（エキスパートセッション）ことを行います。第2段階として各グループから一人ずつ参加したジグソーグループで大きなテーマに関して各記事の説明を他のグループに行っていきます（ジグソーセッション）。このことで大きなテーマに関する様々なアプローチを知ることができることとエキスパートとなった自分自身の知識に責任を持つ姿勢も養うことができ、認知的にかなり負荷の高い活動を行えることとなります。この授業を今期オンラインでやることとなり、実施方法、その効果について手探りでやっている状況ですが、先日一回目のセッションが終わり、学生から前向きな感想をもらい、少し安堵しているところです。

例えば「自分が読んだ記事の内容をみんなに伝え、質問に答えることでより理解が深まった気がする。自分は気にならなかった部分を他の人からの質問によって気づくことができたこともあったので良かった」、「エキスパートグループを経て、ある程度まとまった意見を持ってジグソーセッションに参加したのですが、みんなの様々な意見を聞くうちに刺激され、自分の考えが変わっていったので非常に面白かったです」、「エキスパートディスカッションの時とは違って、みんながそれぞれ違う記事を持ち寄ってきているので、話を聞いていて飽きることがなかったです」という学生の感想が寄せられた。教室内での実施とオンラインでの実施の違いもこれから視野に入れながらこの活動の分析は次の機会に皆さんの前で報告できるように準備していきたいと

考えています。

#### 掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 18 号への掲載論文の投稿（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集します。ぜひ奮ってご応募ください。

締切： 2020 年 9 月 10 日  
刊行予定： 2020 年 12 月  
掲載料： 刷り上がり 1 ページにつき、  
1,000 円の負担  
問合せ： JACET 中部支部事務局

投稿方法等の詳細については中部支部ホームページでご確認ください。

※ 第 17 号の「支部紀要編集委員」に 2 名の委員の記載漏れがありました。岡戸浩子委員・塩澤正委員（50 音順）を追記し、ここに修正とお詫びを申し上げます。

中部支部紀要編集委員会

#### 事務局より

##### ◆ 新入会員紹介

2019 年 12 月から 2020 年 5 月までの中部支部所属の新入会員は以下の方々です。

（敬称略、入会順）

大藪 加奈（金沢大）、タナー ポール（滋賀大）、橋本 将（金沢大）

##### ◆ 2020 年度 中部支部役員紹介（敬称略）

顧問：倉橋洋子（東海学園大名誉教授）、田中春美（南山大名誉教授）、吉川寛（中京大）

理事：石川有香（名古屋工業大）、佐藤雄大（名古屋外国語大）

支部長：石川有香（名古屋工業大）  
副支部長：佐藤雄大（名古屋外国語大）  
事務局幹事：伊東田恵（豊田工業大）  
幹事（支部会計担当）：三上仁志（中部大）

#### 支部研究企画委員（50音順）

安達理恵（椋山女学園大）、石川有香（名古屋工業大）、伊東田恵（豊田工業大）、今井隆夫（南山大）、大石晴美（岐阜聖徳学園大）、大森裕實（愛知県立大）、岡戸浩子（名城大）、木村友保（名古屋外国語大名誉教授）、Leah Gilner（愛知大）、倉橋洋子（東海学園大名誉教授）、小宮富子（岡崎女子短大）、佐藤雄大（名古屋外国語大）、塩澤正（中部大）、鈴木達也（南山大）、馬場景子（中部大）、藤原康弘（名城大）、三上仁志（中部大）、吉川りさ（名古屋工業大）、吉川寛（中京大）、梁志鋭（豊橋技術科学大）

#### 中部支部紀要編集委員会委員

大石晴美（委員長）  
岡戸浩子、Leah Gilner、小宮富子、  
塩澤正、藤原康弘、三上仁志

- ◆ 2020年度第1回支部総会資料について  
第1回支部総会資料を本ニューズレターと共にお送りします。本資料の内容は理事会にて審議・承認を得ており、報告事項となります。本資料に関するご質問がございましたら、6月30日までに、中部事務局までメールにてお寄せください。その際には、件名を【JACET 中部総会資料】とさせていただきます。

#### ◆ 2020年度支部大会研究発表募集

2020年度支部大会を9月12日にオンラインにて行います。現在、研究発表を募集

しております。発表申し込みの締め切りは、7月末日です。JACET 中部支部ホームページより詳細をご確認いただき、同サイトよりお申し込みください。

大会テーマは「オンライン時代における大学英語教育—今、大学英語教員に求められること—」となります。どうぞ奮ってご応募ください。

#### ◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員のみなさまに紀要や Newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。

- ◆ ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。なお、メール件名は【JACET 中部】とお書き添えください。

JACET 中部支部事務局  
〒468-8511 名古屋市天白区久方 2-12-1  
豊田工業大学 伊東田恵研究室内  
E-mail: [tae@toyota-ti.ac.jp](mailto:tae@toyota-ti.ac.jp)

JACET 中部支部ホームページ  
<http://www.jacet-chubu.org/>



#### **JACET-Chubu Newsletter No. 44**

2020年5月20日発行

発行者：一般社団法人 大学英語教育学会  
中部支部（代表）石川有香  
編集者：伊東田恵 佐藤雄大